

授 業 要 項 (令和8年度分)

3 年 生

作業療法学科

授業科目名	リハビリテーション医学		(フリガナ) 担当教官名		馬庭 壯吉・酒井 康生・蓼沼 拓 高橋 幸男・山本 佳昭			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年 作業療法学科 3年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	リハビリテーションが治療的手段として重要である運動疾患、脳血管障害、神経筋疾患、内部障害、小児疾患、精神疾患について学習する。リハビリテーションの阻害因子や予後を左右する要因を検討するための検査法について学ぶとともに、障害の評価、治療、およびセラピストとしての患者さんへの接し方について学習する。							
到達目標	障害の評価及び治療方針を立案することができる。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	脳卒中のリハビリテーション 脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血の治療および高次脳機能のリハビリテーション						山本佳昭	
2-3	神経筋疾患のリハビリテーション パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症等の変性疾患とリハビリテーション 内部疾患のリハビリテーション						酒井康生	
4	整形外科疾患のリハビリテーション・関節リウマチのリハビリテーション						馬庭壯吉	
5	脊髄損傷、切断のリハビリテーション						蓼沼 拓	
6	小児のリハビリテーション						蓼沼 拓	
7	精神疾患および認知症のリハビリテーション						高橋幸男	
8	がんのリハビリテーション 乳がん、大腸がん、胃がん、肺がんとリハビリテーション、がん患者の生活機能と生活の質の改善を目標とする医療ケア						蓼沼 拓	
アクティブ ラーニング								
評価基準	期末試験 90%、出席状況 10%							
教科書	目でみるリハビリテーション医学 (第2版)・上田 敏・東京大学出版会 リハビリテーション医学テキスト (改訂第5版)・三上真弘、出江紳一 (編) 南江堂							
参考書	標準整形外科学 (第14版) 編集・井樋、吉川、津村、田中、高木 現代リハビリテーション医学 (改訂第4版)・千野直一 編集・金原出版							
実務経験に 関する記述	整形外科専門医およびリハビリテーション科専門医、老年精神科専門医、義肢装具適合判定医等の認定を持ち、大学病院等で臨床診療に携る医師が、日々の診療で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。							

授業科目名	チーム医療演習		(フリガナ) 担当教官名	ヤマ	モト	ケイ	コ	
開講学期	前期			山	本	恵	子	
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年 作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>少子高齢化が進み、医療機能も地域全体で治し、支える「地域完結型」の体制構築への変化を迎えている中で、所属施設内外の専門職種と連携・協働する力は医療専門職として必須である。本科目ではこれまでの多職種連携科目での学びを復習すると共に、他職種やそれぞれของทีมを理解し、他職種間でのコミュニケーション技能を養う。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種間におけるコミュニケーションの基本理論を理解し説明できる。</li> <li>・他職種の役割やチームの役割を理解することが出来る。</li> <li>・他職種に意思を伝え、課題を分析し、解決案作成することができる。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容							担 当
1	多職種連携について、コミュニケーション論、チーム医療論、医療コミュニケーション演習での学びについて振り返り、チーム医療論演習の目的、概要について説明する							山本恵子
2	自分を知る							山本恵子
3	相手を知る							山本恵子
4	チームを知る							山本恵子
5	合意形成を体験する							山本恵子
6	PTを知る							山本恵子
7	OTを知る							山本恵子
8	医師を知る							山本恵子
9	看護師を知る							山本恵子
10	チーム（医療）を知る							山本恵子
11	チーム（福祉）を知る							山本恵子
12	発表資料作成							山本恵子
13	発表資料作成							山本恵子
14	発表							山本恵子
15	まとめ							山本恵子
アクティブラーニング	<p>チーム医療について、PT/OTの役割、他職種の役割、チームの機能と役割の実際を知り、チーム医療の一員となる自らの行動についてディスカッションを行い、まとめて発表する。実際にチームを作り、学習を通してチームがどう成熟していくかを体験する。</p>							
評価基準	<p>授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%</p>							
教科書	適宜紹介							
参考書	<p>内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社） 水本清久ほか（編著）：『インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 実際と教育プログラム』（医歯薬出版） 福原麻希（著）：『チーム医療を成功させる10か条』（中山書店） 落合和徳ほか（著）：『チームステップス日本版医療安全』（メジカルビュー社）</p>							
実務経験に関する記述	<p>急性期・回復期・維持期を担う病院で20年の臨床経験を持ち、回復期病棟の立ち上げから管理職として多職種連携チームの発足に携わった教員がコーチングの視点から多職種連携によるチーム医療について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。</p>							

授業科目名	装具学		(フリガナ) 担当教官名		イシ クラ ヒデ キ 石 倉 英 樹		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年 作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	装具の種類と基本的機構について学習する。 各疾患の病態・障害に対する装具治療について学習する。						
到達目標	臨床で使用されている装具について理解する。 各疾患に対して適切な装具療法を検討することができるようになる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	装具学概論 ・装具の概要						石倉英樹
2	下肢の装具療法 ・下肢装具の部品とその機能						石倉英樹
3	下肢の装具療法 ・短下肢装具						石倉英樹
4	下肢の装具療法 ・長下肢装具、股装具、膝装具						石倉英樹
5	下肢の装具療法 ・靴型装具						石倉英樹
6	下肢の装具療法 ・下肢装具のチェックアウト						石倉英樹
7	下肢の装具療法 ・下肢装具のチェックアウト演習						石倉英樹
8	体幹の装具療法 ・体幹装具、側弯装具						石倉英樹
9	上肢の装具療法 ・上肢装具、自助具						石倉英樹
10	疾患に対する装具療法 ・脳卒中片麻痺						石倉英樹
11	疾患に対する装具療法 ・整形外科疾患						石倉英樹
12	疾患に対する装具療法 ・関節リウマチ						石倉英樹
13	疾患に対する装具療法 ・小児疾患						石倉英樹
14	疾患に対する装具療法 ・脊髄損傷						石倉英樹
15	疾患に対する装具療法、講義総括 ・装具療法臨床場面における実際						石倉英樹
アクティブラーニング	各疾患に装具療法に関する演習を行い、臨床場面に即した装具療法の実際について理解を深める。						
評価基準	期末試験 100% *ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学 第2版 総編集 石川朗 中山書店 義肢装具のチェックポイント (第9版) 医学書院						
参考書	義肢・装具学 (羊土社) リハビリテーション義肢装具学 (メジカルビュー社)						
実務経験に関する記述	病院や施設、支援学校での理学療法士としての臨床に従事した教員が、装具療法に関する経験をもとに講義を行う。						

授業科目名	研究方法論Ⅲ		(フリガナ) 担当教官名		作業療法学科教員		
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	臨床現場において作業療法の取り組みについて振り返ることや新たな知見を探究していくことは重要である。この授業では、論理的に物事を捉え、相手に伝わるプレゼンテーション能力を養うことを目的としている。また、研究方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ研究の基礎知識や方法に加え、執筆・発表規程や研究を行う際の説明と同意といった倫理に配慮しながら研究を進めていくことを学ぶ。						
到達目標	1. 研究方法論Ⅱで作成した研究計画書を元に研究論文を作成することができる。 2. 研究論文を他者に伝わりやすいように工夫し発表できる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	【オリエンテーション】授業の目的・到達目標・授業の概要・指導担当教員決め・学修の準備について担当教員が説明する。 スケジュールなど研究に関する総論を担当教員が説明する。						作業療法 学科教員
2	研究計画書をもとに、研究スケジュールを作成する。						作業療法 学科教員
3~30	指導教員の指導のもと、調査あるいは実験の実施ができる。 適切な統計手法を用いてデータを解析できる。 文献を用いて結果の解釈や考察ができる。 倫理的かつ科学的根拠に基づいた論文を執筆できる。 研究論文発表に向けた準備を行う。担当教員は研究論文発表に向け指導・助言を行う。						作業療法 学科教員
アクティブ ラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は研究スケジュールを立て、管理する。必要に応じて、グループ間で研究に関するディスカッションを行う。 ・担当教員はグループに対し、指導・助言を行う。						
評価基準	研究に対する取り組み姿勢：20%、研究論文：40%、卒業論文発表：40%で判定する						
教科書	適宜配布						
参考書	鎌倉矩子他著：作業療法士のための研究法入門 三輪書店						
実務経験に 関する記述	学会発表を行っている教員、修士課程を修了している教員により指導を行いながら、実践的な教育を行う。						

授業科目名	作業療法マネジメント論 I		(フリガナ) 担当教官名		アオキ 木 竜太朗・錦 織 健 次 イワ タ ジュン ヤ			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	作業療法学科	3年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	本講義では、より効率的な作業療法を提供するために必要な組織の管理や運営といったマネジメントについての知識を深める。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメント、組織、リーダーについて説明できる。</li> <li>・部門を管理する意義・要因を説明できる。</li> <li>・身近な組織について、人・もの・時間の視点で課題を抽出し、課題解決に向けた取組を立案することができる。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	組織について						青木竜太朗	
2	組織管理における人・物・金・時間について						岩田淳也	
3	組織管理におけるリーダーとフォロワーについて						錦織健次	
4	クラス運営によるプロジェクト管理						錦織健次	
5	クラス運営によるプロジェクト管理						錦織健次	
6	クラス運営によるプロジェクト管理						錦織健次	
7	クラス運営によるプロジェクト管理						錦織健次	
8	クラス運営によるプロジェクト管理						錦織健次	
アクティブ ラーニング	組織、リーダー、部門管理についてグループワークを行い、その結果の発表を行う。							
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、及び課題から総合評価 100%							
教科書	作業療法管理学入門 第3版 大庭潤平編著 医歯薬出版							
参考書	リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック メジカルビュー社 医療機関、介護施設のリハビリ部門管理者のための実践テキスト ログカ書房							
実務経験に 関する記述	10年以上の臨床経験と3年～5年以上の管理業務を経験した教員が担当する							

授業科目名	作業療法マネジメント論Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名	モリワキ シゲト コバヤシ ヒサト シノザキ アユミ 森脇 繁登・小林 央・篠崎由美 コヤマ マサユキ オロジ カツヤ シラガシンノスケ 小山 雅之・下石 勝哉・白鹿真之介 アオキ リュウタロウ 青木 竜太郎				
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	作業療法学科	3年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本講義では、より効率的な作業療法を提供するために必要な組織の管理や運営といったマネジメントについて、各領域の実践例について学び、病院組織の仕組みとリーダーの役割を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を育てる必要性について説明できる。</li> <li>・作業療法士が活躍する各領域での組織運営について理解する。</li> <li>・理想とする組織像を提案し、自身が貢献できる取組を立案することができる。</li> </ul>							
回数	授業内容						担当	
1	作業療法士のキャリア支援について						下石	
2	部門を管理する；目標立案と管理のポイントについて						森脇	
3	急性期における組織運営						森脇	
4	回復期における組織運営						小林	
5	精神領域における組織運営						篠崎	
6	就労支援における組織運営						小山	
7	生活期における組織運営						白鹿	
8	まとめ						青木	
アクティブ ラーニング	組織運営についてグループワークを行い、その結果の発表を行う。							
評価基準	授業内態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価 100%							
教科書	作業療法管理学入門 第3版 大庭潤平編著 医歯薬出版							
参考書	リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック メジカルビュー社 医療機関、介護施設のリハビリ部門管理者のための実践テキスト ログカ書房							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	臨床作業療法評価学（演習）		（フリガナ） 担当教官名		ニシコ オリ ケン ジ アオ キ リュウタロウ 錦 織 健 次 ・ 青 木 竜 太 朗 外部講師			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>臨床実習に向けた客観的臨床能力評価（OSCE）を行う。学生が自己の臨床能力（精神・運動領域、認知領域、情意領域）の到達水準を客観的に知り、不足している技能の学習を進めることで臨床実習に必要な能力を向上することを目的とする。</p> <p>臨床技能に関する講義・演習の後に模擬症例を用いてコミュニケーション、検査・測定技術、分析・解釈を評価者が試験にて評価する。試験後に学生は評価者からフィードバックを受ける。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各評価項目における目的や意義を述べることができる。</li> <li>各評価項目に求められる技術を模擬患者を対象に実施することができる。</li> <li>一連のオリエンテーション、評価のプロセスで医療人として相応しい態度、関わりを示すことができる。</li> <li>臨床実習までの自身の課題を明確にし、改善に向けて努力することができる。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1~2	OSCE オリエンテーション・スケジュール提示						錦織・青木 外部講師	
3~13	【演習・講義】身体障害						錦織・青木 外部講師	
14・15	実技試験						錦織・青木 外部講師	
アクティブ ラーニング	アクティブラーニングの内、「ピアインストラクション」の手法を用い、実技内容についてペアの学生同士で教えあうことで思考プロセスに他者視点を取り込んで、より客観性を持った形で自身の問題を明確に意識しやすくする学習方略をとる。							
評価基準	実技試験 100%（身体障害者分野について実施する。基準を設け基準をお超えた場合に合格とする。実技試験前にプレ試験を実施し、学生自身の到達度を明確にする。この科目の単位認定できた者は、臨床実習への参加を認める。							
教科書	特になし 各演習にて適宜提示する							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>才藤栄一監修「PT・OTのための臨床技能と OSCE ～コミュニケーションと介助～」金原出版 2015年</li> <li>才藤栄一監修「PT・OTのための臨床技能と OSCE ～機能障害・能力低下への介入～」金原出版 2015年</li> </ul>							
実務経験に関する記述	身体障害領域・老年期領域・発達領域で8年～20年の経験を有する教員が各項目ごとに担当し、身体障害領域の評価の知識と技術について、学生個別の課題に応じた細かな指導を実践する。また、実務家教員の参加にてより臨床的な視点を養う。							

授業科目名	作業療法治療学I-2(整形系)		(フリガナ) 担当教官名		ヨシダ シュン スケ サ トウ チ アキ 吉田 俊輔・佐藤 千晃			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	整形外科疾患をもつクライアントに対する作業療法について、講義、演習およびグループワークを通して学習する。講義では、各疾患特有の病態について画像を用いながら理解を深める。演習では、病態を踏まえた上でクライアントの作業の可能化に必要な評価や介入について学習する。グループワークでは、演習でまとめた内容を基にグループ内で共有し、学びを深める。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種疾患の病態を説明できる</li> <li>・各種疾患の病態におけるリスクと予後が説明できる</li> <li>・症状により疾患特異性評価を列挙できる</li> <li>・模擬事例の情報をICFの視点で説明できる</li> <li>・疾患に応じたプログラムを立案できる</li> <li>・各疾患と画像所見とを結びつけて理解できる</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	オリエンテーション、整形外科疾患に対する作業療法の総論						吉田俊輔	
2~7	脊髄損傷の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について（講義、模擬事例を活用した演習、グループワーク）						吉田俊輔	
8~11	関節リウマチの病態・合併症・リスク管理、評価、介入について（講義、模擬事例を活用した演習、グループワーク）						吉田俊輔	
12~17	骨折および関節疾患の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について（講義、模擬事例を活用した演習、グループワーク）						吉田俊輔	
18~20	腱損傷の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について（講義、模擬事例を活用した演習、グループワーク）						吉田俊輔	
21~24	末梢神経損傷の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について						佐藤千晃	
25~26	熱傷の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について						佐藤千晃	
27~30	切断の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について						佐藤千晃	
アクティブ ラーニング	各疾患の模擬症例を用いて、グループでディスカッションを実施する。							
評価基準	期末試験 80%、授業態度 20%							
教科書	・小林隆司（編）：PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 1 骨関節・神経疾患編 第1版、羊土社							
参考書	・井樋栄二（著）：『標準整形外科学 第14版』（医学書院）							
実務経験に 関する記述	身体障害領域で10年程度の臨床経験を有する教員が、具体的な事例を提示しながら実践的な教育を行う。							

授業科目名	作業療法治療学I-3(内科系)		(フリガナ) 担当教官名		ニシコ オリ ケン ジ ・ サ トウ チ アキ 錦 織 健 次 ・ 佐 藤 千 晃		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	作業療法における各種内部疾患と症状について理解し、評価、治療理論、リスク管理等について理解を深める。合わせて、対象者を作業的存在として捉えた作業療法を実施できることを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種疾患の病態と症状を説明できる</li> <li>・各種疾患の病態におけるリスクと予後が説明できる</li> <li>・症状により疾患特異性評価を列挙できる</li> <li>・模擬症例の情報をICFにまとめ、全体像を捉えることができる。</li> <li>・疾患と、症例情報を合わせた視点から介入方法を立案し、説明できる</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1~2	心臓の解剖・生理						佐藤千晃
3~6	各心疾患の病態、合併症、リスク管理、心電図、評価、作業療法について						佐藤千晃
7	模擬症例を通じてのICFの実践：グループワーク						錦織健次
8	模擬症例を通しての目標立案・治療アプローチ：グループワーク						錦織健次
9~10	呼吸器の解剖・生理・運動						錦織健次
11~12	呼吸器疾患の病態、合併症、リスク管理、評価、作業療法について						錦織健次
13~14	嚥下障害の病態と作業療法						錦織健次
15	模擬症例を通じてのICFの実践：グループワーク						錦織健次
16	模擬症例を通しての目標立案・治療アプローチ：グループワーク						錦織健次
17~19	腎臓の解剖と生理、腎疾患の病態・合併症・リスク管理、評価、作業療法について						錦織健次
20	模擬症例を通じてのICFの実践：グループワーク						錦織健次
21	模擬症例を通しての目標立案・治療アプローチ：グループワーク						錦織健次
22	糖尿病の病態、合併症、リスク管理、糖尿病の評価と作業療法について						錦織健次
23	模擬症例を通じてのICFの実践：グループワーク						錦織健次
24	模擬症例に対しての目標設定・治療プログラム立案：グループワーク						錦織健次
25~27	がんリハビリテーション 概論・苦痛と対応、管理とリハビリテーションの実際、血液データの診方						佐藤千晃
28	模擬症例を通じてのICFの実践：グループワーク						錦織健次
29	模擬症例に対しての目標設定・治療プログラム立案：グループワーク						錦織健次
30	吸引について						佐藤千晃
アクティブ ラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。						
評価基準	期末試験（60%）、グループワークの態度・発表（20%）、確認テスト（20%）						
教科書	小林隆司（編）：身体障害作業療法学2 内部疾患編 第1版、羊土社						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 菅原洋子他編集；作業療法学全書4 身体障害 改訂第3版、協同医書</li> <li>2. 齊藤佑樹著；作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方、医学書院</li> <li>3. 柴喜崇（編）：ADL 第2版、羊土社</li> </ol>						
実務経験に 関する記述	地域で約10年の臨床経験を有する教員が、内科系疾患を有する事例を提示し、実践的な教育を行う。						

授業科目名	作業療法治療学Ⅱ-2(精神)		(フリガナ) 担当教官名		マス 増 ザキ 崎 ケン 堅 ト 斗		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	精神障害を有する人々に対する治療の基本的な考え方と方法について学習する。 各精神疾患に対する治療的アプローチを、演習や一部体験を通して理解し、実践的に習得する。 事例検討を通して、評価から介入、経過の捉え方までの臨床的思考過程を身につける。						
到達目標	各精神疾患の治療の目的と流れを理解し、その中での作業療法の役割を説明できる。 各精神疾患に対する治療方法を検討し、その一部を実践的に実施することができる。 精神障害を有する人々の生活機能・社会参加の視点から、治療と支援の関係を考察できる。						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション、精神障害の作業療法の特徴						増崎堅斗
2	神経症性障害に対する作業療法						増崎堅斗
3	神経症に対する作業療法						増崎堅斗
4	神経症に対する作業療法						増崎堅斗
5	摂食障害に対する作業療法						増崎堅斗
6	摂食障害に対する作業療法						増崎堅斗
7	パーソナリティ障害に対する作業療法						増崎堅斗
8	パーソナリティ障害に対する作業療法						増崎堅斗
9	依存症に対する作業療法						増崎堅斗
10	依存症に対する作業療法						増崎堅斗
11	てんかん患者に対する作業療法						増崎堅斗
12・13	SOAPの書き方						増崎堅斗
14	事例検討						増崎堅斗
15	事例検討						増崎堅斗
アクティブ ラーニング	シラバスから学修内容を理解し、各回におけるテーマを事前に予習し授業に臨む。 グループワーク、ディスカッション、模擬体験等を交えながら知識の定着や理解を促す。						
評価基準	期末試験-80% 授業態度-20% (学習姿勢、演習姿勢、発言・質問の積極性)						
教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編集 中央法規出版						
参考書	山根 寛著：精神障害と作業療法 第3版 三輪書店 石井 良和：精神領域の作業療法 第2版 中央法規出版						
実務経験に 関する記述	精神科病院に従事し、臨床経験を積んだ教員が、精神疾患における評価法を具体的な事例を提示し教育を行う。						

授業科目名	作業療法治療学Ⅱ-3(精神)		(フリガナ) 担当教官名		マ 増 ア 秋	ザ 崎 ヤ 山	ケ 堅 ケ 健	ト 斗 タ	シ ノ 篠	ザ 崎	ア ユ ミ 由 美
開講学期	後期										
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修				
科目概要	<p>他者紹介・自己分析を行い、援助者としての対人関係スキルを高める。 事例検討およびグループワークを通して、精神科作業療法における臨床的思考力を養う。 外部講師による講義を通して、臨床場面における作業療法の治療および援助内容を理解する。</p>										
到達目標	<p>他者紹介および自己分析を通して、援助者として求められる対人関係スキルを身につけ、適切に活用できる。 事例検討およびグループワークを通して、対象者の課題を整理・説明できる。 臨床場面における作業療法の治療および援助内容を理解し、具体例を挙げて説明できる。</p>										
回数	授業内容									担当	
1	オリエンテーション									増崎 堅斗	
2	他己紹介 グループワーク									増崎 堅斗	
3	事例検討 グループワーク									増崎 堅斗	
4	事例検討 グループワーク									増崎 堅斗	
5	自己分析 グループワーク									増崎 堅斗	
6	自己分析 グループワーク、自己分析振り返り									増崎 堅斗	
7	精神科作業療法の評価・治療									篠崎 亜由美	
8	各期に応じた支援内容									篠崎 亜由美	
9	グループワーク									篠崎 亜由美	
10	精神科作業療法の評価									秋山 健太	
11	地域生活支援									秋山 健太	
12	地域生活支援									秋山 健太	
13	地域生活支援 グループワーク									秋山 健太	
14	振り返り									増崎 堅斗	
15	振り返り									増崎 堅斗	
アクティブ ラーニング	シラバスから学修内容を理解し、各回におけるテーマを事前に予習し授業に臨む。 グループワーク、ディスカッション、模擬体験等を交えながら知識の定着や理解を促す。										
評価基準	レポート課題 -80% 授業態度 -20% (学習姿勢、演習姿勢、発言・質問の積極性)										
教科書	資料配布										
参考書	堀田 英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規出版 山根 寛著：精神障害と作業療法 第3版 三輪書店 石井 良和：精神領域の作業療法 第2版 中央法規出版										
実務経験に 関する記述	精神科病院に従事し、臨床経験を積んだ教員が、精神疾患における評価法を具体的な事例を提示し教育を行う。 内容により臨床業務を行っている外部講師を招き、臨床家から学ぶ時間を設けている。										

授業科目名	作業療法治療学Ⅲ（発達）		（フリガナ） 担当教官名		ニシコ 錦 イワ 岩	オリ 織 タ 田	ケン 健 ジュン 淳	ジ 次 ヤ 也	・	フク 福 ヒギ 引	シマ 島 野	ユ 由 里	ミ 美 絵
開講学期	前期												
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別		必修					
科目概要	発達時期に疾病または外傷による末梢神経系あるいは中枢神経系に障害を受けた児・者の作業療法についての講義。疾患の症状、合併症、禁忌事項を学び、作業療法介入の理論、思考について知る。また、当事者を作業遂行者として捉え人間発達学・小児科学・運動学・作業療法概論・作業療法評価学等の知識を踏まえて将来を見通した作業療法に取り組めることを目標にしている。												
到達目標	1. 発達障がいの特徴を理解した上で評価、支援の視点が説明できる。 2. 当事者との話、動画を用いた事例検討から、作業療法介入のプログラムを立案することができる。												
回数	授 業 内 容											担 当	
1	オリエンテーション（作業療法の目的や流れ）											錦織健次	
2	ポジショニングとシーティング（講義）											岩田淳也	
3	ポジショニングとシーティング（演習）											岩田淳也	
4	摂食機能と姿勢の関連（講義）											岩田淳也	
5	摂食機能と姿勢の関連（演習）											岩田淳也	
6	脳性麻痺（痙直型）の作業療法（新生児期～幼児期）											錦織健次	
7	脳性麻痺（痙直型）の作業療法（学童期～青年期）											錦織健次	
8	脳性麻痺（アトローゼ型）の作業療法											錦織健次	
9	筋ジストロフィー・二分脊椎の作業療法											錦織健次	
10	自閉スペクトラム症の作業療法											岩田淳也	
11	注意欠如多動症（ADHD）の作業療法											岩田淳也	
12	学習障害（LD）の作業療法											岩田淳也	
13	知的障害・ダウン症の作業療法											岩田淳也	
14	保護者／関連機関との連携・介入											岩田淳也	
15	医療における作業療法の実践①											福島由美	
16	医療における作業療法の実践①											福島由美	
17	医療における作業療法の実践②											福島由美	
18	医療における作業療法の実践②											福島由美	
19	発達特性のある方（18歳まで）が利用できる福祉施設の概要と特性											岩田淳也	
20	放課後等デイサービス事業について、評価及び作業療法介入（ADHDやSLDについてのビデオ観察、評価）											岩田淳也	
21	感覚統合療法（講義・演習）											岩田淳也	
22	感覚統合療法（講義・演習）											岩田淳也	
23	感覚統合療法（講義・演習）											岩田淳也	
24	感覚統合療法（講義・演習）											岩田淳也	
25	地域における作業療法の実践											引野里絵	
26	地域における作業療法の実践											引野里絵	
27	当事者との面談を通じた作業療法評価・プログラム作成の実践											岩田淳也	
28	当事者との面談を通じた作業療法評価・プログラム作成の実践											岩田淳也	
29	ビデオ視聴による評価・ICFのまとめ。介入方法作成の実践											岩田淳也	
30	ビデオ視聴による評価・ICFのまとめ。介入方法作成の実践											岩田淳也	
アクティブ ラーニング	演習を通し、介入の一部を体験する。動画視聴から作業療法評価、作業療法プログラム立案を体験する。												
評価基準	成績は定期試験（80%）、課題への取り組み（20%）等を総合して評価する												
教科書	資料配布												
参考書	・佐藤 剛：作業療法士協会監修、作業治療学3. 発達障害. 協同医書出版社 ・岩崎清隆他：発達障害の作業療法 実践編 第3版 三輪書店 ・土田玲子：感覚統合Q&A 第2版 協同医書出版社												
実務経験に 関する記述	医療を中心とした臨床現場から、地域での子育て支援、発達障がい児・者の支援に関わる教員が理論と実践の両面から講義を展開する。												

授業科目名	作業療法治療学Ⅳ（高次脳）		（フリガナ） 担当教官名		アオ キ リユウタロウ ニシ ムラ ショウ ヘイ 青 木 竜太郎・西 村 翔 平		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	高次脳機能障害の作業療法を理解し、その臨床思考過程について学ぶ。模擬事例を通し、各高次脳機能障害の症状に対する評価立案・ICFによる分類・治療プログラムの立案までの一連の過程を経験する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障害に対する作業療法の流れを理解し、説明できる。</li> <li>・模擬事例を通して、基本情報・脳画像より適切な評価を列挙できる。</li> <li>・模擬事例の評価情報をICFでまとめ、問題点を整理することができる。</li> <li>・各症状に応じたプログラムを立案することができる。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	高次脳機能障害の作業療法について、作業療法目的・流れを説明する。加えて、本科目の目的、内容、到達目標をオリエンテーションする。						青木竜太郎
2	注意障害の模擬症例（基本情報・脳画像）を用いて評価計画の立案をグループで協議し発表する。						青木竜太郎
3	注意障害の模擬症例を用いて評価情報をICFでまとめ、グループにて利点・問題点を整理する。						青木竜太郎
4	注意障害の模擬症例についてICFを用いて利点・問題点を発表する。						青木竜太郎
5・6	遂行機能障害・記憶障害・半側空間無視障害の模擬症例を用いてグループ毎に評価計画の立案、ICF整理、利点・問題点の抽出						青木竜太郎
7	遂行機能障害・記憶障害・半側空間無視障害の模擬症例についてグループ発表する。						青木竜太郎
8	注意障害・記憶障害の患者に対する治療戦略を提示する。						青木竜太郎
9	遂行機能障害・半側空間無視の患者に対する治療戦略を提示する。						青木竜太郎
10~12	注意障害・記憶障害・遂行機能障害・半側空間無視の模擬患者に対する治療の立案を各グループで検討する。						青木竜太郎
13・14	注意障害・記憶障害・遂行機能障害・半側空間無視の模擬患者に対する患者紹介及び、治療の提示をグループで発表する。						青木竜太郎
15	高次脳機能障害者が地域で暮らすとは						西村翔平
アクティブ ラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。						
評価基準	筆記試験80%、グループ演習20%						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉矩子・本多留美：高次脳機能障害の作業療法 第一版 三輪書店</li> <li>・高次脳機能障害マエストロシリーズ③ リハビリテーション評価 医歯薬出版</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渕雅子：作業療法全書 改訂第3版 第8巻 作業療法治療学 5 高次脳機能障害協同医書出版</li> <li>・高次脳機能障害マエストロシリーズ① 基礎知識のエッセンス 医歯薬出版</li> <li>・高次脳機能障害マエストロシリーズ② 画像の見かた・使い方 医歯薬出版</li> </ul>						
実務経験に 関する記述	総合病院、回復期病院において、8年間専任作業療法士として従事し、回復期病棟、医療療養型病棟、外来における高次脳機能障害の治療に関わった教員が、障害や症状に応じた機能回復訓練、代償方法、応用動作訓練について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。						

授業科目名	作業療法治療学Ⅴ（老年期）		（フリガナ） 担当教官名		ヨシダ シュン スケ タ ナカ ケイ スケ 吉田 俊輔・田中 圭介		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	老年期の特徴を理解し、評価および作業療法介入について学ぶ。 対象者を支援するための様々な視点を養う。						
到達目標	1. 我が国における高齢者の現状を理解する。 2. 認知症高齢者を含めた虚弱高齢者に対する作業療法の概要と評価を理解する。 3. 老年期における作業療法の実践に必要な知識と技術を習得する。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	老年期における作業療法の背景						吉田俊輔
2	老年期における作業療法の目的と変遷						吉田俊輔
3	老年期の一般的特徴						吉田俊輔
4	老年期にまつわる保険制度						吉田俊輔
5	老年期における特徴的な疾患						吉田俊輔
6	フレイルを有する方への作業療法						吉田俊輔
7	フレイルを有する方への作業療法						吉田俊輔
8	認知症を有する方への作業療法						吉田俊輔
9	認知症を有する方への作業療法						吉田俊輔
10	認知症を有する方への作業療法						吉田俊輔
11	認知症を有する方への作業療法						吉田俊輔
12	老年期における作業療法理論の活用法						田中圭介
13	老年期における作業療法理論の活用法						田中圭介
14	老年期における作業療法の実践例						田中圭介
15	まとめ						吉田俊輔
アクティブ ラーニング	老年期作業療法において対象者に実施される評価や介入を検討し、発表をする。						
評価基準	筆記試験 80%、授業態度（グループワークへの参加や発表など） 20%						
教科書	東登志夫 監修：シンプル作業療法学シリーズ 老年期障害作業療法学テキスト 南江堂						
参考書							
実務経験に 関する記述	10年程度の臨床経験を有する教員が、具体的な事例を提示しながら実践的な教育を行う。						

授業科目名	応用作業分析学		(フリガナ) 担当教官名		ヨシ 吉 アオ 青	ダ 田 キ 木	ジュン 俊 リュウ 竜	スケ 輔 タロウ 太朗	ニシコ ・ マス 増	オリ 織 サキ 崎	ケン 健 ケン 堅	ジ 次 ト 斗
開講学期	通年				外部講師							
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	90 3	授業 形態	演習	必修・選択 の別		必修				
科目概要	作業療法士がその専門性を発揮できる対象は疾病がある者・予測される者、また健康な者まで非常に幅広く、捉え方も様々である。本授業では幅広い対象者について時期別に作業療法に必要な思考プロセスを事例動画や臨床患者を通じて演習形式で学ぶ。尚、本科目では「PBL チュートリアル」を導入し、各グループごとにチューターが関わりながら課題に立脚した学生の能動的な学びを支援する。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業面接と作業観察ができる。</li> <li>・作業についての統合と解釈を記載することができる。</li> <li>・身体障害、精神障害、発達障害の作業療法の思考プロセスを理解する。</li> <li>・各段階に必要な評価や治療、マネジメントの方法などを列挙できる。</li> <li>・将来、医療チームの一員として、集団の中での協調性と積極性ならびに責任を發揮できる態度と技量を身につける。</li> <li>・自己ならびに他の学生、事例、チューターを適正に評価し、適切なフィードバックに基づいて改善したり資質向上を促す態度と技量を身につける。</li> </ul>											
回数	授業内容										担当	
1	オリエンテーション（授業の概要説明・グループ設定）										錦織・青木	
2~5	動画視聴からクライアントの作業面接と作業観察の実践										吉田・錦織 青木	
6~16	作業分析と症例経験レポートの模擬的作成										吉田・錦織 青木	
17~20	実務家教員による各領域の実際の事例に対する検討										吉田・錦織・増崎 外部講師	
20~25	事例に対して各学生による事例発表準備										吉田・錦織 増崎	
26~27	事例に対して各学生による事例発表										吉田・錦織 増崎	
28~38	面接技法を活用した SST、動作分析と作業分析										錦織・増崎	
39~45	地域臨床実習に対する模擬事例を活用した検討										錦織・青木	
アクティブ ラーニング	本科目では「PBL チュートリアル」の形態をとり、 1) 学生主体の能動的自己学修 2) 少人数によるグループダイナミックスを活用した学修形態により、 3) 問題に準拠した学修、 4) 統合的・学際的な学修を押し進める。											
評価基準	成果物の提出：80% 出席日数・グループ活動における態度・行動 20%											
教科書	適宜提示する											
参考書	授業の進行とともに適宜紹介する											
実務経験に 関する記述	身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域・生活期で 10 年～ 20 年の経験を有する教員が各項目ごとに担当し、各領域の評価の知識と技術について、学生個別の課題に応じた細かな指導を実践する。											

授業科目名	職業関連活動		(フリガナ) 担当教官名	ニシコ 錦 イワ 岩	オリ 織 ネ 根	ケン 健	ジ 次 ヒロシ 寛	オオ ・大	タニ 谷	マサ 将	ユキ 之
開講学期	後期										
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修				
科目概要	1. 心や体に障がいをもった方、生まれながらにして障がいをもつ方にとって、就労の意味と役割を考え、支援する力を養う。 2. 作業療法の発祥に遡り、作業療法士として就労支援の意義を考え、臨床多分野でも就労支援ができる視点を養う。 3. 就労支援における作業療法士の役割が多様化される時代のニーズに即した柔軟な考えができるよう視野を広げる。										
到達目標	1. 何のために働くのか自分の考えを明確にすることができる。 2. 他者の就労に対する価値観を共有することができる。 3. 障害者総合支援法における福祉サービスの種類と作業療法士の役割を理解する。 4. 「仕事」という作業の分析と就労支援に必要な作業療法に関する知識・支援技術を身に付ける。										
回数	授業内容										担当
1	職業関連活動の概説 オリエンテーション 【講義】他の科目と職業関連活動科目の位置づけ、概要、目的を担当教員が講義をする。障害児・者の日本の歴史、世界の歴史、作業療法発祥と就労支援の歴史について講義をする。										錦織健次
2	職業関連活動の概念 【演習】働く目的と意味を考え求人票を外観する。人が働く意味について、ディスカッションを通して学生個々の考えを明確化し、クラス内で共有し、様々な価値観を共有する。										錦織健次
3	職業関連における検査測定法										錦織健次
4	人の職業的発達、障がい者と職業 【講義】Ericssonの発達段階、Maslowの欲求階層に基づき、人の職業的発達をSuperのキャリア発達の視点から人の職業的発達を講義する。障害者の就労の現状と課題を理解する。										錦織健次
5	職業関連活動に関する作業療法の実践										大谷将之
6	職業関連活動に関する作業療法の実践										大谷将之
7~8	【演習】就労支援の実習 障害者就労支援の現場に赴き、見学/評価を行う。										錦織健次
9~10	仕事と作業分析と発表 【演習】										錦織健次
11~12	就労支援に関わる関連法規、就労支援における各種関連機関と関連職種 【講義】障害者自立支援法、障害者総合支援法、障害者雇用率制度、職業能力開発促進法、障害者総合支援法における福祉サービスの種類と特徴、機関：ハローワーク、特別支援学校、地域障害者職業センター、障害者職業能力開発学校等 専門職：ジョブコーチ、社会福祉士等の役割について。										錦織健次
13	職業関連活動に関する作業療法の実践										岩根 寛
14	職業関連活動に関する作業療法の実践										岩根 寛
15	事業所の運営、地域の課題、産業の課題について講義。作業療法士の職域と役割についてディスカッションをする										錦織健次
アクティブ ラーニング	1. 就労支援で実際に用いられる評価をグループで協力して調査し、学ぶ。 2. 模擬症例を通し、人・環境・仕事の特性を分析し、どのような支援が必要であるかを検討する。 3. 就労支援事業所に出かけ、観察評価、面接評価による作業療法評価を一部体験する。体験した内容に基づき、対象者にとって必要な就労支援の問題点抽出と作業療法計画の立案を一部体験する。										
評価基準	筆記試験 70%、レポート 30%										
教科書	適宜資料配布										
参考書	作業療法改訂第6版. 上巻. H.Lhopkins, H.D.Smith 編著. 鎌倉矩子他訳 作業療法学全書改訂第三版. 第12巻. 職業関連活動. 平賀昭信ら著. 協同医書出版 作業療法マニュアル 58 高次脳機能障害のある人の生活・就労支援. 日本作業療法士協会. 2015										
実務経験に 関する記述											

授業科目名	地域インクルーシブ論		(フリガナ) 担当教官名	黒	マツ	ケイ	ジュ	クロ	マツ	モト	コ
開講学期	前期			高	松	慶	樹	・	黒	松	基
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	15 1	授 業 形 態	講義	必修・選択 の別		必修			
科目概要	超高齢社会の日本において、認知症を持つ人々が尊厳を持って自分らしく暮らせる「インクルーシブな社会」を実現するための理論と実践を学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多角的視点による理解と共感</li> <li>・実践的な支援スキルの修得</li> <li>・地域包括ケアと多職種連携の理解</li> </ul>										
回数	授 業 内 容									担 当	
1	VR 認知症体験									黒松慶樹	
2	VR 認知症体験									黒松慶樹	
3	医師による医学講義、予防・MCIについて									高橋幸男	
4	認知症特化型ケアを実践する医師の考え方や作業療法士に求めること									高橋幸男	
5	作業療法士による作業療法、特化型デイの実際									吉田朋子	
6	当事者および家族の精神的・身体的負担についての講話									黒松基子	
7	認知症サポーター養成講座を受講									雲南市 保健医療政策課	
8	まとめ・振り返り									青木竜太郎	
アクティブ ラーニング	対話型ラーニング、リフレクションを通して学生が知識を「自分事」として捉え、現場での実践力に変える。										
評価基準	課題レポート 80%、出席日数・授業態度 20%										
教科書	適宜プリント配布する。										
参考書	適宜配布										
実務経験に 関する記述	認知症に関する実践を行う医療・福祉分野で活躍する医師・社会福祉士・作業療法士・当事者が講義、講演を行う。										

授業科目名	臨床実習Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		各臨床実習施設指導者・全専任教員		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	135 3	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅰに引き続き、作業療法士の業務について理解を深める。</p> <p>臨床実習Ⅰの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な検査・測定方法を選択し正確に実施する能力、および検査・測定の結果を専門用語を用いて正確に記録する能力を育成することを目的とする。また、対象者とのラポールを築くため、目的に沿った医療面接の技術を育成する。</p>						
到達目標	<p>臨床実習Ⅰの到達度に加え以下の項目を到達度とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目を列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施できる。</li> <li>臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者あるいは家族に対して検査・測定に関するオリエンテーションが適切に実施できる。</li> <li>検査・測定結果を専門用語を用いて正確に記録することができる。</li> <li>臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な医療面接が実施できる。</li> </ul>						
<b>授 業 内 容</b>							<b>担 当</b>
<p>臨床実習 時間：120時間（3週間：15日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取る。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目が列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施する。また、検査・測定等に関するオリエンテーションを実施する。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間とし、家庭学習時間を含め45時間以内とする。</p>							臨床実習 指導者
アクティブ ラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラクシップ）を行う。						
評価基準	<p>総括的評価は学院教員にて実施する。</p> <p>オリエンテーションへの出席状況や態度、臨床実習中の状況、臨床実習最終状況（評価による評価結果含む）、臨床実習後の提出課題内容、実習報告会の内容を総合的に評価し成績判定する。</p>						
教科書	島根リハビリテーション学院 作業療法学科 臨床実習要綱						
参考書							
実務経験に 関する記述	臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。						

授業科目名	臨床実習Ⅲ		(フリガナ) 担当教官名		各臨床実習施設指導者・全専任教員		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	135 3	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅱに引き続き、作業療法士の業務について理解を深める。</p> <p>臨床実習Ⅰ～Ⅱの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、得られた情報収集内容や検査・測定結果間の関連性を整理し統合・解釈し問題点を整理する能力を育成する。加えて、統合・解釈の思考過程を文章化する能力を育成することを目的とする。</p>						
到達目標	<p>臨床実習Ⅰ～Ⅱの到達度に加え以下の項目を到達度とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床実習指導者の指導・助言のもと、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を整理し統合・解釈できる。</li> <li>ICIDHあるいはICFにもとづき問題点を整理できる。</li> <li>統合・解釈の思考過程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。</li> </ul>						
<b>授 業 内 容</b>							<b>担 当</b>
<p>臨床実習 時間：120時間（3週間：15日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取る。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者の課題解決に向け、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を統合し解釈する。問題点を整理し、統合・解釈の思考過程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間（120時間）とし、家庭学習時間を含め45時間以内（135時間）とする。</p>							臨床実習 指導者
アクティブ ラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラクシップ）を行う。						
評価基準	<p>総括的評価は学院教員にて実施する。</p> <p>オリエンテーションへの出席状況や態度、臨床実習中の状況、臨床実習最終状況（評価による評価結果含む）、臨床実習後の提出課題内容、実習報告会の内容を総合的に評価し成績判定する。</p>						
教科書	島根リハビリテーション学院 作業療法学科 臨床実習要綱						
参考書							
実務経験に関する記述	臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。						

授業科目名	総合演習Ⅲ		(フリガナ) 担当教官名		作業療法学科教員		
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、国家試験にむけた学習を進める。 専門基礎分野の復習と暗記、専門分野の知識の定着、問題の読解と方略を学ぶことを目標とする。						
到達目標	専門基礎分野では、各分野の到達度を把握し到達度範囲の全てを暗記することができる。 専門分野では、まとめる、理解し説明できる、読解するといった学習方略を身に付けることができる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	解剖学 (骨関節靭帯)						作業療法学科 全教員
2	解剖学 (筋起始・停止)						作業療法学科 全教員
3	解剖学 (脳解剖)、生理学						作業療法学科 全教員
4	運動学						作業療法学科 全教員
5	精神医学						作業療法学科 全教員
6	臨床心理学						作業療法学科 全教員
7~8	脳血管疾患						作業療法学科 全教員
9~10	神経筋疾患						作業療法学科 全教員
11~13	整形外科疾患						作業療法学科 全教員
14~15	その他						作業療法学科 全教員
アクティブ ラーニング	e-learning 学習と講義を用いて、専門基礎分野と専門分野の理解と暗記を図る。 1. 科目担当教員から事前に分野の講義動画の提示がある。学生は提示された講義動画を聴講し、理解と暗記を図る。その後、学生は分野の問題を解く。 2. 分からなかった問題については、調べ学習を行ったり、学生間で話し合い、理解を深める。加えて、教員の指導の基、さらなる理解を深める。 3. 最後に難易度の異なる問題を解き、分からなかった問題については、上記と同様な方法を用いて理解を深める。						
評価基準	ペーパー試験 100% ※年間7回 (日程については別途提示する) ある試験のうち1回以上、総得点の4.5割を超える回があること。						
教科書	適時資料を配布						
参考書	国試の達人 運動解剖生理学編 (株) アイベック 国試の達人 臨床医学編 (株) アイベック 国試の達人 作業療法編 (株) アイベック						
実務経験に 関する記述							